

2011年9月28日

## 硬質塩化ビニル板製造用プレス機の『未来技術遺産』登録に関する件

三菱樹脂株式会社

三菱樹脂株式会社(本社:東京都中央区 社長:吉田 宏)は、長浜工場で所有する硬質塩化ビニル板製造用プレス機『3×6-1プレス機』が、日本の科学技術の発展を示す貴重な科学技術史資料として国立科学博物館の重要科学技術史資料『未来技術遺産』に登録されましたのでご連絡いたします。

重要科学技術史資料『未来技術遺産』は、2008年、国立科学博物館が、日本の科学技術発展を示す貴重な資料の保存と活用を図り、科学技術の急速な発展、技術革新や産業構造の変化のなかでその意義や存在が失われていくことを防ぐとともに、科学技術を培ってきた先人たちの経験を次世代に継承していくことを目的に制定した登録制度です。

これに登録される資料は、科学技術史資料のうち、「科学技術の発達上重要な成果を示し、次世代に継承していく上で重要な意義を持つもの」や「国民生活、経済、社会、文化の在り方に顕著な影響を与えたもの」に該当するものです。

当社が長浜工場で所有している硬質塩化ビニル板製造用プレス機『3×6-1プレス機』は、3尺×6尺(900mm×1800mm)のサイズに国内で初めて対応した硬質塩化ビニル板の機械です。それまでの硬質塩化ビニル板は、下敷きなどに使われていたセルロイド代替の雑貨用途が主体であったため、半分程度のサイズしか需要がなく、かつそれ以上大きなサイズの板を作る技術もありませんでした。しかし、当社が工業用途への市場開拓に努めた結果、塩酸のタンクや電解槽の内張り向けなどの用途が拡大。従来の生産機では生産能力や品質・サイズとも不十分となってきました。そこで『3×6-1プレス機』の導入による大容量化と、100種類以上の試作により当時の様々な板の標準サイズに対応できる本格的な工業用途向けの硬質塩化ビニル板生産技術を確立しました。そして、そのことが、その後の硬質塩化ビニル板の普及に大いに寄与したものと考えられています。今般、その様な当時の様子を知れる貴重性が評価され『未来技術遺産』に登録されることとなりました。

当社は、これからも、機能材料メーカーとしての独自の技術を最大限に活かして、社会の発展に貢献できる商品開発に取り組んでまいります。

<本件に関する報道関係のお問合せ先>  
三菱樹脂株式会社 総務部 広報室  
TEL:03-3279-3800

<別紙>

■写真：硬質塩化ビニル板製造用プレス機『3×6-1プレス機』



■写真：登録証を受け取る木戸工場長（9月27日：国立科学博物館における表彰式にて）

